

第 71 回 “社会を明るくする運動” 中間報告

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

第 71 回目を迎えた“社会を明るくする運動”も、地域の皆様の御協力により、各事業を無事開催することができています。

今回は、強調月間（7月）に開催された事業を中心に、各事業の主幹である飯田地区保護司会の専門部から、事業の報告をいたします。

1 街頭啓発活動 [飯田地区保護司会・総務部]

7月1日、飯田・鼎・桜町・伊那上郷駅前で、啓発活動を行いました。コロナ感染防止のため、活動する保護司の人数を減らし、感染防止対策を講じた上で実施しました。地域の皆様に社会を明るくする運動についてPRでき、いいスタートを切ることができたと思います。

来年度は、より多くの方へPR出来るよう、PR方法を検討していきます。



2 内閣総理大臣メッセージ伝達式・公開ケース研究会 [飯田地区保護司会・研修部]

7月5日、鼎文化センターにて「内閣総理大臣メッセージ伝達式」及び「公開ケース研究会」を開催しました。コロナ禍で参加者数を限定し、鼎地区から52名の方に参加いただきました。



「内閣総理大臣メッセージ伝達式」では、社会を明るくする運動強調月間開始にあたり、内閣総理大臣からのメッセージが、飯田市長へ伝達されました。

「公開ケース研究会」では、『保護観察中の成人が再犯をした』という事例を取り上げ、1. なぜ再び罪を犯してしまったのか 2. 立ち直りのため本人はどのようなことに気を付けていかなければならないか 3. 本人の立ち直りのため、地域社会でできる事はないか、出来るとすればどんな支援が考えられるか について5グループに分かれて話し合いました。参加者から「犯罪や非行をした人を理解し更生の手助けが必要」「地域の方がそれぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない《安全で安心な明るい社会》を築きたい」など多くの意見が出され、更生保護活動や社会を明るくする運動への理解が深められたと感じます。



3 中学生対象講話会 [飯田地区保護司会・協力組織部]

7月8日、鼎中学校にて「中学生対象講話会」を行い、400余名の方にご参加いただきました。講師に、小林英樹先生（飯田市出身/舞台俳優・教員）を招き、「Yes, and で心地いいコミュニケーション」というテーマで、人との良好な関係を築くコツのお話がありました。



- ◆ 相手の言葉を肯定し続けて会話を重ねることで、次々と会話が繋がる。
- ◆ 否定や無愛想な返事をする则会話が成立せずケンカになってしまいそうな雰囲気になる。

このようなお話を一方的な講演でなく、実践を交えて学び、生徒の皆さんも一生懸命耳を傾けていました。

4 地区講演会 [飯田地区保護司会・広報部]

7月9日、山本公民館にて「地区講演会」を行いました。飯田市教育長の代田昭久氏を講師に迎え「コロナ後の教育 ～創造的復興を目指して～」を演題にお話をいただきました。

内容は、新型コロナウイルス感染症に関して、講師自らの感染経験に触れたうえで、デマ情報や誹謗中傷についてのお話や、コロナ後に「安全で安心して暮らせる明るい社会」を創るためにどうすればよいか等、これらを聴講者自身が考え発言する形で進められました。

他人を思いやる気持ちの大切さと、人と人、人と社会の繋がりなど、地域社会の中で生きている私たちにとっての大事なことを再認識する機会となりました。



当日は、山本地区から81名の皆さんにご参加いただきました。

5 小中学生作文コンテスト [飯田地区保護司会・協力組織部]

毎年飯田市内の全小中学校のご協力のもと実施している作文コンテスト。本年度は計802点（小学生546点、中学生256点）の応募がありました。そのなかで特に優れた作品について、飯田市選考委員会（9月9日開催）から長野県選考委員会に推薦しました。

県での選考の結果が届くのは年明け以降の予定です。学校を通じて選考結果をお知らせするとともに、応募いただいた方全員に参加賞を、入賞された方にはさらに賞状等をお渡ししますので、楽しみに待っててください。

上記の事業はすべて皆さまから寄せられた「愛のはがき募金」により開催しています。
この他にも、更生保護ミニ集会や学校講演会等の開催費用や、更生保護や犯罪予防の
ための活動を行う市内団体の活動資金として活用させていただいています。
「愛のはがき募金」の募金総額は 3,102,849 円です（9/15 現在）。
皆さまのご協力に、心より感謝申し上げます。

社会を明るくする運動飯田市推進委員会 事務局（飯田市役所福祉課）